

## レポートで Aを狙おう!!

調べるためには、それがどういったものであるかを知るために、参考文献やデータをまず集めねばなりません。文献を初めとして、どんな基礎資料を集めるのかは極めて重要です。

### 「調べる」 そして「まとめる」

調べものの仕方はコンピュータ・ネットワークの発達によって劇的に変化しました。以前は図書館学で言うレファレンス・ワークを行う必要がありました。様々なレファレンス・ツール(各種事典・辞典、索引、目録、典拠録等々)の存在を知っており、かつ使いこなせなければならなかったのです。今やそのほとんどが、インターネットでできるようになりました。このスキルは「英語A」や「コンピュータ・リテラシー」「インターネットと経済」の授業で学んで下さい。「レポートの書き方」でさえ、ウェブ上にいくつも見つけることができます。

次に必要となるのが、文章としてまとめ上げる能力です。まず様々な情報源から集めた情報に目を通します。そうして内容が一通り把握できたら、こんどはそれらを一本に纏り合わせます。その過程でテーマを具体的に絞り込んで行くのです。調べた内容が全部使えるわけではありません。捨てるものもあるでしょうし、まとめていくうちにさらに深く調べる必要が生じることもあるでしょう。また、

MASAKI TAKAMATSU

## 高松 正毅



経済学部助教授。

専門は国語学・言語学。「日本語概説」「日本語研究」「文章表現Ⅰ・Ⅱ」「論文作法Ⅰ・Ⅱ」を担当。

「新選組」と「白虎隊」を愛する。尊敬する人物は「榎本武揚」「土方歳三」ら多数。嫌いなものは「薩摩と長州」。誓いの言葉は「臥薪嘗胆」。入場テーマ曲:「アイ・オブ・ザ・タイガー(サバイバー)」&「ターミネーターのテーマ」

### 「レポート」って、何!?

レポートとは「(調査・研究)報告書」です。先生から与えられたテーマについて調べ、まとめ上げ、提出する書類がレポートです。そのテーマについて、先生自身は熟知しているわけですから、レポートの課題が出たということは、「そのテーマについて君自身で勉強しなさい。」という指令が出たのだと思って下さい。

手を抜こうとしたり、上手にごまかそうとしたりしてはいけません。レポートの課題が出されると、他人が書いた本やウェブサイトから適当に抜き出し、いわゆる「糊とはさみ」でつぎはぎして、あたかも自分が書いたかのように見せかける人が出ます。これは「盗作」や「剽窃」と呼ばれるれっきとした犯罪です。これは絶対にいけません。それよりも、「引用」の仕方と、「参考文献」のあげ方を、まず身につけて下さい。

レポートと一口に言っても、そのあり方は様々です。「金融ビッグバン」といった事柄の意味する内容を聞くようなものから、「少子高齢化が日本経済に与える影響とその対策」といった考察を含むもの、また「世界恐慌とイギリスのブロック経済」のような歴史的なものまで、テーマは授業科目によって多種多様です。何がテーマであっても、まず必要となるのは「事実関係の把握」と「現状認識の形成」です。ですから、レポートを書く第一歩は「調べる」ことになります。

## 読んでみよう

木下是雄  
『レポートの組み立て方』  
ちくま学芸文庫  
『理科系の作文技術』  
(中公新書)が有名ですが、  
がこの書は「文化系の  
研究レポート」に的を  
しぼったものです。

河野喜也  
『レポート・論文の  
書き方入門』  
慶応義塾大学出版会  
同出版会から桜井雅  
夫氏による「上級」編も  
出ています。

小笠原喜康  
『大学生のためのレ  
ポート・論文術』  
講談社現代新書  
『インターネット完  
全活用編』という続編  
もあります。

戸田山和久  
『論文の教室レポー  
トから卒業まで』  
NHKブックス

では無意味で、その使い方を学ぶ  
必要があります。それを鍛えよう  
とするのがレポート課題です。「自  
分で考える。」そのために課される  
のがレポートなのです。

## 「論文」と、どう違うの!?

レポートは「○○についてまと  
めなさい」と最初から指示が出ます。  
ですから、先生から出された課題  
に対し過不足なく十全にこたえて  
いれば、それでOKです。しかし  
論文となると、課題(=問いや問題)  
そのものを自力で見出さねばなり  
ません。どのゼミに所属しても、  
先生からさまざまなアドバイスは  
もらえますが、「君はこういうテー  
マで『論文』を書きなさい」と指示  
されることはまずありません。

皆さんのほとんどにとって大学  
で「論文」を書くことが要求され  
るのは、たったの一回、「卒業論文」  
です。「卒業論文」は大学四年間の  
集大成として書くものです。です  
から大学での学習のすべてが「卒  
業論文」作成のためにあると言っ  
ても過言ではありません。

「問い」を発見し、事実関係を調  
べ上げ(この部分がレポートに当  
たります)、分析や考察を重ねて自  
らの考えを展開し(この部分を「立  
論」と言います。)、結論や主張に  
至る。

このように、思考の流れや筋道、  
展開(=「論」)があるものが「論文」  
です。「論」があるからこそ「論文」  
で、「論」を欠くものは「論文」と  
は呼べません。

まずは事実や実態を調べる能力、  
そしてそれによって正確な知識や  
情報を獲得し、さらにそれらを体  
系化・組織化できる能力、これら  
がレポート作成によって<sup>つちか</sup>培われます。  
レポートがまとめられることが、  
論文を書き上げる基礎にあるのです。

レポートでAを狙いましょう。  
それこそが優れた大学生になる第  
一歩だからです。

定まった書式や体裁、構成上の決  
まりもあります。別表に参考書を  
挙げました。「文章表現」や「論文  
作法」の授業も是非参考にしてく  
ださい。しかしこのスキルは、最終  
的には場数を踏んで試行錯誤を重  
ねながら身につけて行く以外にあ  
りません。

忘れてならないのは、先生に提  
出するそのレポートは、先生のため  
に書くわけではないということです。  
繰り返しますが、先生はその  
テーマについて熟知しています。  
今更勉強する必要もないし、皆さ  
んから教えられることもありません。  
レポートは、君たち自身が勉強す  
るためにまとめるものです。です  
から、「これだけちゃんとした資料  
に当たって調べ、これだけきちん  
とまとめました。」と、しっかりと  
勉強したことをアピールするよう  
に書き上げましょう。すなわち「良  
い仕事」をしましょう。

## レポートは「感想」 ではなく、 「考える」ためのもの

君は高校までに、さまざまな局  
面で「感想」を述べてきたかもし  
れません。しかしその「感想」が、  
ある瞬間に心に浮かんだものに過  
ぎなければ、全くの無価値です。  
それは単なる心の反射であって、「考  
える」という主体的・積極的な行  
為がそこにはないからです。授業中、  
先生の話聞いていなくても、全く  
何も読まず、何一つ調べなくても  
書けるレポートというのはあり  
得ません。「感想」めいたものを添  
える場合でも、それは自らの「意見」  
や「見解」でなければならず、そこ  
にはそう考える「根拠」が示され  
なければ説得力を持ちません。「と  
にかくこう思うからこうなのだ。」  
ではダメなのです。

自分の頭でとことん考えましょう。  
では「考える」ためには何が  
必要か。広範かつ正確な知識です。  
ただしそれらは単に詰め込み覚えただけ

